

名作の舞台から

映画『時をかける少女』 (広島県尾道市・竹原市)

日本交通技術株式会社
土橋 亮太 (会誌編集専門委員)
DOBASHI Ryota

概要

1983年7月16日に公開された『時をかける少女』は、大林宣彦監督による作品であり、原田知世が映画初主演を務めた日本映画である。この映画は、筒井康隆のジュブナイルSF小説『時をかける少女』を原作とした作品であり、大林宣彦の「尾道三部作」(他の2作は『転校生』と『さびしんぼう』)の2作目にあたる。撮影の多くは、監督の故郷である広島県尾道市で行われ、一部は竹原市でも行われた。

主演の原田知世は、この作品で演技が高く評価され、第7回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞した。映画の配収は28億円を記録し、邦画としては年間2位の興行成績を収めた。また、映画は何度も再上映され、多くのファンに愛され続けている。特に、リバイバル上映や特別上映会が頻繁に行われ、世代を超えて支持されている。

物語は、ある土曜日の放課後に始まる。高校生の芳山和子は、実験

室で不思議なラベンダーの香りをかいで失神してしまう。その日を境に、和子は時空を移動する「タイムリープ」現象に巻き込まれていく。彼女は時間を超えて過去や未来を行き来しながら、様々な出来事に直面し、自分自身や周囲の人々との関係を見つめ直していくのである。

尾道市

尾道市は、広島県南東部、瀬戸内海に面しており、美しい海と山々に囲まれた風光明媚な場所である。市内には、古い寺院や神社が点在し、特に千光寺からの眺めは絶景である。作中でも、この千光寺公園からの風景が印象的に描かれており、訪れる人々に映画のシーンを思い起こさせる。

また、尾道市は「坂の町」としても知られており、狭い路地や石段が入り組んだ町並みが特徴である。これらの風景は、映画の中で和子がタイムリープするシーンにおいても重要な役割を果たしている。尾道市を訪れると、映画の世界に迷い込んだかのような感覚を味わうことができる。



良神社



良神社脇の路地



胡堂



西方寺からの景色

竹原市

竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置しており、瀬戸内海の豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。特に、江戸時代の風情を色濃く残している町並み保存地区の胡堂や堀川、本通りは重要なシーンで取り上げられている。

映画の舞台

・良神社 (尾道市)

和子の幼少期やタイムリープ中に登場。平安時代初期(806年)に創建され、尾道で最初にできた神社とされている。

・良神社脇の路地 (尾道市)

登下校時のシーンで登場。

・胡堂 (竹原市)

作中で自転車とのすれ違いや、屋根の瓦が落ちてくるお堂であり、和子がタイムリープに気づくきっかけとなるシーンに登場。

・西方寺からの景色 (竹原市)

タイムリープや登下校時に登場。

・竹原本通り (竹原市)

町並み保存地区となっており、様々なシーンで登場。

・堀川 (竹原市)

和子の幼馴染の堀川吾朗の醤油店。実際は、お好み焼き屋さんとして営業している。

<写真提供>

P30 上、P31 左上、右下:土橋亮太
P30 下、P31 左中、右中:米山賢
P31 右上、左下:服部晃大



竹原本通り



堀川

現地を訪れるなら

作中にも千光寺公園からの景色が所々で用いられており、美しい海と山々を鳥瞰することができる。2020年に完成した新展望台「PEAK (ピーク)」は、全長63mの橋状の展望台となっており、瀬戸内海の島々や尾道水道を様々な角度から見るることができる。



千光寺公園展望台「PEAK」



展望台からの景色